

報

ち か ら

静岡市相撲連盟

会 長 中村修二

事務局 村越浩二

令和4年7月

静岡相撲部OBちから会

昭和30年ちから会創立

昭和39年 11月 初刊

会 長 細倉涼太

☆第42回静岡県子供すもう大会

☆第24回静岡県女子相撲選手権大会

6月12日藤枝の静岡県武道館相撲場にて右記の2大会が行われました。先日城北相撲場にてわんぱく相撲静岡予選が行われ約100名が参加し、大会後に相撲興味をもった子供が増え、子供すもう大会には静岡市相撲教室から13名、女子相撲選手権大会には3名出場しました。

子供すもう大会結果

1年生	準優勝	小幡昇太郎 (静岡大附属小)
2年生	3位	笹 比呂希 (静岡富士見小)
3年生	3位	上坂 匠 (静岡番町小)
4年生	3位	尾崎伸太郎 (静岡南部小)
5年生	3位	上坂隼斗 (静岡番町小)
6年生	3位	望月煌正 (静岡麻機小)

女子相撲選手権大会結果

小学生の部 優勝 宇佐見里和 (静岡長田西小)

参加役員 下村・川上・川根・山中・河野・村越

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

☆第41回会長杯静岡県中学生相撲選手権大会

6月19日、宮北高で会長杯が行われ、静岡市相撲教室から高松中3年生根上航平君が出場、約30名参加する中、準優勝し2年連続で全国都道府県中学生相撲選手権大会に出場することが決まりました。

参加役員 下村・川上・山中

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

☆第30回わんぱく相撲静岡県大会

6月26日焼津市宮相撲場にてわんぱく相撲県大会が行われました。この大会で女子は8月21日沖縄で行われる全国大会に各学年3位まで、男子は10月30日両国国技館で行われる全国大会に各学年4位まで出場することになります。

4年生女子	増田帆奏	5勝1敗	優勝
5年生女子	杉本悠朱	1勝1敗	2位
6年生女子	宇佐見里和	5勝1敗	2位
4年生男子	上坂隼斗	5勝3敗	3位
5年生男子	望月滉太	0勝8敗	9位
6年生男子	望月煌正	5勝3敗	4位

参加役員 下村・川上・山中・村越

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

令和4年度ちから会会費納入有難うございます。

伏見 勝・斉藤順也

☆関西支部だより

関西支部支部長 富坂誠二

平安時代からの都、真の京都とは現在の上京、中京、下京の三区を洛中と呼んで、その他は京都じゃないと豪語する人もいるそんな歴史の街を紹介します。

○京都の道路は整然とした基盤の目に

洛中は長方形で御所はその北の端に位置している。その長方形を東西に走る道路は北から南へ二条、三条：JR京都駅の八条まであり、その通りに挟まれた小路(こうじ)が新撰組で知られる油小路や錦小路など歴史に登場するものなど沢山ある。これらすべてを子供でも覚えやすいようにと、江戸時代から覚え歌が伝わっている。丸竹夷・(まる、たけ、えびす・)と御所の前から丸太町通り、竹屋町通り、夷川通りのように通りの順に頭の文字に節をつけて子供たちは覚えた。今でも中年の方は全部歌える方が多い。一方、南北の道路は東大路通りや河原町通りなどの主道路の間に東西と同じように小路があつて街が整然とまさに基盤の目のごとく交差している。同じ基盤の目でも京都は大阪と違い歌にして通り名を覚えやすくしたように、東西と南北の通りの名を組み合わせる言い方が、古くから伝わり現在でも日常生活に定着している。例えば「四条河原町」などは良く耳にされると思いますが、これは東西(四条通り)と南北(河原町通り)の交差する場所を云い「明日は四条河原町で待ち合わせしよう」などと会話をします。

○京都の郵便宛名は日本で一番長いのでは？

静岡鉄道が三年ほど前に京都市内にホテルを二か所開業した。その内の「静鉄ホテルプレジオ京都四条」の住所は「京都市中京区西洞院通錦小路上の古田町452」とパンフレットに二十一文字が書かれている。これの古田町以下は一般に云う住所表示で、これだけでも十分に郵便物は配達されますが、京都人はこちらはあまり重要視しない、それよりも南北の西洞院通(にしきこうじ)の交差点を御所へ上る(御所のある北へ向かう)のだとホテルの位置を読み取る。私も長年、関西にすんでいるので古田町以下は目に入らずに「あーあの辺りか」と場所の見当がつく。通り名の次の上るは、御所に向つて「上ル(あが)る」行くこと、その反対を「下ル(さがる)」と云う。一方の東西方向の場合は東へ行くのか、西へ行くのかを「入ル(いる)」で表して、反対の出るは使わない。現在、私たちはJRの時刻表で「上り」と「下り」を当然のように使っていますが、これは明治時代、鉄道が初めて開通した時に京都の習慣を用いて、皇居に向つて同じ使い方をしたのが由来ではと私見です。

大阪人の合理主義に比べると、京都人はさすがに長い公家社会の生活習慣が染み込み、古きを尊び言葉遣いなどもゆったり、はんなりして古い歴史風情を今でも残している。数百年続いている商店は当たり前、明治時代以前からの町屋造りと思える家々を沢山見かける。最後に京都市内が、一日も早く観光客があふれるようになればと願っています。